

第 **11** 号…平成28年10月

# 協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

## 関東地域づくり協会からのお知らせ

- 3 10月1日 事業譲渡が完了しました  
平成27年度優良業務・優秀技術者表彰を受賞しました  
関東地方防災エキスパート 情報交換会を開催
- 4 平成28年度関東ブロック 災害復旧事業技術講習会を開催  
平成28年度浦安市総合防災訓練に参加

## 社会資本に関する話題

- 5 平成28年度 関東地方整備局関係第2次補正予算について

プロジェクトK<sup>20</sup>

- 6 地域の交通網整備と発展の先駆けとなる  
圏央道 千葉県区間 東金茂原道路（東金JCT～茂原長南IC）

関東の河岸めぐり<sup>8</sup>

- 10 巴波川河岸 栃木県

関東の土木遺産<sup>29</sup>

- 12 倉松落大口逆除 埼玉県

## 会員のひろば

- 14 居合無窮

## 会員情報

- 15 新会員紹介・お悔やみ  
編集委員会だより

ピックアップ 関東の「道の駅」<sup>7</sup>

- 16 自然の恵みと心の触れ合いを生かす体験学習で交流  
道の駅あおき



## 表紙の言葉

並木達郎さん（群馬県 新島学園高等学校）

## 家路

この写真は当会が主催する第28回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部の金賞に選ばれた群馬県新島学園高等学校の並木達郎さんの作品です。

「夕日を背に家路を急ぐ車と、オレンジ色の太陽が、私のイメージしていた構図と重なり、夢中で連写しました。良い光を感じたのは数秒で、最高の瞬間に遭遇できたと思います」



## 10月1日 事業譲渡が完了しました

発注者支援業務等については、平成22年7月の国土交通省関東地方整備局長からの撤退要請を受け、平成24年度の総会で決めていただいたロードマップに従い、順次、関東建設マネジメント（株）へ業務を譲渡してまいりました。今年10月1日で事業譲渡が完了したことをお知らせします。

| 年度       | 譲渡事業                     |
|----------|--------------------------|
| 平成 25 年度 | 工事監督支援業務、施工体制・プロセス支援業務   |
| 平成 26 年度 | ダム管理支援業務、施設管理支援業務        |
| 平成 27 年度 | 河川巡視支援業務、道路許認可審査・適正化指導業務 |
| 平成 28 年度 | 積算技術業務、技術審査業務、用地補償総合技術業務 |

## 平成27年度 優良業務・優秀技術者表彰を受賞しました

関東地方整備局の優良業務・優秀技術者表彰は、業務への取り組み方およびその成果が優秀であり、他の模範となるものを表彰する制度です。表彰によりさらに技術

力が向上し、事業が円滑に推進されることを目的としています。平成27年度、関東地域づくり協会では、下記の3件が表彰されました。

### 局長表彰

#### 優良業務・優秀技術者



局長表彰(東北地方整備局)

#### ①技術部

業務：三陸沿岸道路事業監理業務  
(洋野工区)

発注者：三陸国道事務所  
優秀技術者：塚本仁

### 事務所長表彰

#### 優良業務・優秀技術者



事務所長表彰

#### ③用地部

業務：H26・27ハッ場ダム用地補償総合  
技術業務

発注者：ハッ場ダム工事事務所  
優秀技術者：高澤準次

#### 優良業務



局長表彰(関東地方整備局)

#### ②用地部

業務：東関東水戸線道路事業監理業務  
26C3 (JV (株)長大、(一社)関東地域  
づくり協会、前田建設工業(株))

発注者：常総国道事務所

## 関東地方防災エキスパート 情報交換会を開催

関東地方防災エキスパートは、地震および風水害等の大規模災害発生時または発生の恐れがある場合に、専門知識を生かして被災状況の迅速な収集把握と通報等、災害対応に関する支援活動をボランティアとして行っています。関東地方整備局の各事務所主催でこれらの活動に必要な防災エキスパートとの情報交換会を毎年実施しており、今年度も7、8月に、9支部35事務所と情報交換会を開催しました。



バスタ新宿で開催された情報交換会(主催:東京国道事務所)

## 平成28年度関東ブロック 災害復旧事業技術講習会を開催

9月21日（水）、当会および一般財団法人茨城県建設技術公社との共同主催により、港区虎ノ門の発明会館において、関東地方で災害復旧事業に携わる実務者を対象とした災害復旧事業技術講習会を開催しました。

我が国では近年、台風や異常気象による大規模な風水害、地震や火山噴火による被害が多数起こっています。平成27年9月の関東・東北豪雨に伴う大出水により引き起こされた鬼怒川の決壊、平成28年4月の熊本地震など、大きな災害の発生が続いています。

公共土木施設は国土の保全や生命財産の保護に欠かせない重要施設であり、これらの施設が災害に遭えば、

人々の生活の安定は失われ、社会経済にも甚大な被害をもたらします。被災した施設は早急に復旧しなければなりません。本講習会は、災害が起こった場合に、復旧事業の各種申請資料等を検討・作成するために必要な技術・制度などについて理解を深めるために行っているものです。

台風の翌日でしたが、当日は約260名の方々にご参加いただき、講習会は大盛況のうちに幕を閉じました。

共催：一般社団法人建設コンサルタンツ協会 関東支部  
一般社団法人全国測量設計業協会連合会  
関東地区協議会・東京地区協議会  
一般社団法人全国地質調査業協会連合会  
関東地質調査業協会  
後援：国土交通省関東地方整備局  
公益社団法人全国防災協会

### ■ 講義内容

「災害復旧事業制度と災害採択基本原則」

辰野剛志氏（国土交通省水管理・国土保全局防災課 災害査定官）

「災害復旧事業における留意事項」

大日方尚巳氏（（公社）全国防災協会 災害復旧技術専門家）

「茨城県の災害について」

山中博氏（茨城県土木部河川課 技佐兼課長補佐（技術総括））

「災害復旧工法事例」

大日方尚巳氏（（公社）全国防災協会 災害復旧技術専門家）



## 平成28年度浦安市総合防災訓練に参加

9月25日（日）に千葉県浦安市の浦安総合公園において、市の主催による総合防災訓練が行われました。

浦安市の総合防災訓練では、例年、参加者が直接体験できるさまざまなブースが設けられています。災害時に的確な対応ができるよう浦安市と防災関係者が防災意識を共有することも目的の一つです。

当会は、体験エリアにおいて河川の堤防決壊や台風などの大雨時の浸水対策として、防災エキスパートが市民および市職員等を対象とした土のうづくりの体験を指導しました。また、熊本地震の状況写真や首都直下地震などのパネル展示も行いました。



防災エキスパート（オレンジのチョッキ着用）による市職員に対する土のうづくり体験指導



パネル展示



平成28年度  
関東地方整備局関係第2次補正予算について

平成28年度関東地方整備局関係第2次補正予算として、2,833億円が配分されました。

今回の補正予算は、8月2日に閣議決定された「未来への投資を実現する経済対策」において、取り組むべき課題として挙げられた以下の4点を対象として所要の経費が計上されました。

- ①一億総活躍社会の実現の加速
- ②21世紀型のインフラ整備
- ③地方の支援

④熊本地震や東日本大震災からの復興や安全・安心、防災対応の強化

この中でも、地域の実情や地方公共団体の要望等を勘案し、高い緊急性と効果が認められる事業を中心に、必要な経費が計上されています。

|         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 第2次補正予算 | 関東地方整備局関係 | 2,833億円  |
|         | 国土交通省関係   | 13,665億円 |

■総括表(直轄事業+補助事業)

(単位:百万円)

| 区分       | 平成 28 年度 |         |         |
|----------|----------|---------|---------|
|          | 直轄       | 補助      | 合計      |
| 治水       | 14,955   | 70      | 15,025  |
| 道路       | 36,643   | 13,863  | 50,506  |
| 港湾       | 12,766   | 8,234   | 21,000  |
| 空港       | 8,628    |         | 8,628   |
| 住宅対策     |          | 2,199   | 2,199   |
| 市街地整備    |          | 1,978   | 1,978   |
| 都市水環境整備  | 452      |         | 452     |
| 国営公園等    | 679      |         | 679     |
| 社会資本総合整備 |          | 182,083 | 182,083 |
| 一般公共事業計  | 74,123   | 208,427 | 282,550 |
| 官庁営繕     | 739      |         | 739     |
| 合計       | 74,862   | 208,427 | 283,289 |

※ 空港の金額は、東京国際空港配分額のうち、関東地方整備局の執行分。  
※ 社会資本総合整備は、「社会資本整備総合交付金」と「防災・安全交付金」がある。  
※ 計数はそれぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは一致しない場合がある。

■主要事業の概要

| 事業の名称                          |                               | 都県名               | 事業の概要・補正予算による実施予定                             | 分類* |
|--------------------------------|-------------------------------|-------------------|-----------------------------------------------|-----|
| 河川関係<br>上段：水系河川名<br>下段：事業(地区)名 | 利根川水系鬼怒川<br>河川激甚災害対策特別緊急事業    | 茨城県               | 堤防の高さ、幅不足対策として盛り土等を実施                         | ④   |
|                                | 利根川水系渡良瀬川<br>河川改修事業           | 栃木県               | 堤防の高さ、幅不足対策として盛り土等を実施                         | ④   |
|                                | 利根川水系<br>総合水系環境整備事業（利根川・江戸川）  | 群馬県<br>東京都<br>千葉県 | 良好な水辺空間の形成による観光地の魅力向上のため、階段護岸等の整備を実施          | ②   |
|                                | 富士川水系<br>砂防事業                 | 山梨県<br>長野県        | 土砂災害防止のための砂防堰堤の整備等を実施                         | ④   |
| 道路関係<br>上段：路線名<br>下段：事業(地区)名   | 国道4号<br>東埼玉道路（延伸）             | 埼玉県               | 生産性の高い物流ネットワークを構築するため、工事用道路設置工事を実施            | ②   |
|                                | 国道298号<br>東京外かく環状道路（千葉県区間）    | 千葉県               | 生産性の高い物流ネットワークを構築するため、舗装工事を実施                 | ②   |
|                                | 国道468号<br>首都圏中央連絡自動車道（横浜湘南道路） | 神奈川県              | 生産性の高い物流ネットワークを構築するため、橋梁工事及び改良工事を実施           | ②   |
|                                | 中部横断自動車（富沢～六郷）                | 山梨県               | 災害時の安定的な道路交通を支える代替性確保ネットワーク整備のため橋梁工事及び改良工事を実施 | ④   |

※ 分類：①一億総活躍社会の実現の加速  
②21世紀型のインフラ整備  
③地方の支援  
④熊本地震や東日本大震災からの復興や安全・安心、防災対応の強化



# 地域の交通網整備と 発展の先駆けとなる

圏央道 千葉県区間 東金茂原道路  
(東金JCT～茂原長南IC)



茂原北IC付近

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、  
苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。  
第29回は、千葉県の圏央道事業に携わった広瀬勇さん、佐野勇さんと  
現場を訪ねました。



広瀬勇さん

特定非営利活動法人人材活用連携  
推進機構理事長。昭和38(1963)年  
入省。東京湾岸調査事務所所長を務め、  
平成12(2000)年に退職。

佐野勇さん

株式会社銭高組東京支社土木支店  
技術部長。昭和41(1966)年入省、北  
首都国道調査事務所調査副所長を務  
め、平成15(2003)年に退職。







1



2

① 圏央道東金JCT

② 圏央道茂原北IC

(写真提供:千葉国道事務所)

④ 施工前の航空写真を見ながら、各地での課題を思い返す

③ 平成25年4月27日に  
開通した東金JCT～  
木更津東IC区間の通  
り初め(写真提供:千葉  
国道事務所)



3



4

## 着工前の一苦労 住民への説明会に全力を尽くす

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の千葉県区間は、茨城県・千葉県境から木更津JCT間で、現在事業中の大栄JCT～松尾横芝IC区間を含めて約95km。その一翼を担う東金JCTから茂原南IC間の延長21.6kmは東金茂原道路として整備された。

圏央道は3環状9放射の首都圏交通網の中核を担う道路として計画されており、特に千葉県では、県内のどこからでも1時間以内に県庁に来られるような道づくりの中心に据えられていた。

東金茂原道路の基本計画が決定したのは、平成5(1993)年7月30日。整備計画素案が了承されたのが平成10(1998)年2月10日。これを基に都市計画市町原案が作成され、小中学校の講堂や公民館などを会場にした地元説明会が開催されたのは同年7～8月の夏真っ盛りだった。さらに、3カ月後の11月から翌年2月にかけては、環境影響評価(アセスメント)準備書地元説明会も行われた。これらの地元説明会を主導したのが、平成10年

4月に東京湾岸道路調査事務所の所長として着任した広瀬勇さんと、副所長として着任した佐野勇さんだ。

「当時は圏央道の事業自体、“第一歩踏み出した”というくらいの時期でした。全長約300kmにもなる道路であり、これは大掛かりな工事になるだろう。果たして私が生きているうちに完成するだろうかと思ったものです」と広瀬さんは当時を振り返る。

道路事業は、

- ・道路調査計画
- ・都市計画素案の地元への説明
- ・都市計画決定
- ・事業と測量の説明会
- ・道路の詳細設計
- ・用地測量
- ・用地買収
- ・工事説明会
- ・着工
- ・(完成後)維持管理

までが一連の流れである。

東京湾岸道路調査事務所、通称“湾調”は調査計画と



⑥ 説明会の際に使用した資料の一部(佐野さん所有)。  
地域ごとにシナリオを作った



⑤ 地域への説明会での佐野さん。次から次へと質問が繰り出された



⑦ 桂地区の航空写真



⑧ 盆地の出口に道路ができることで排気ガスなどの不安を訴える住民に配慮して、盛り土から高架構造にした(桂地区)

地元説明会、都市計画決定までを担当。これは道路事業のスタートに当たる。

「我々の仕事は着工する以前のところですから、なかなか光を浴びることがありません。しかし、地道な説明会なくして、道路づくりは始まらないのです。圏央道に関しては区間が長いので道路が通過することになる地域も多く、本当に大変な仕事でした」(佐野さん)

当時、圏央道については各地で都市計画決定を行うための説明会が開催されていたが、神奈川県、東京都、埼玉県では大規模な反対運動も起きていた。佐野さんの言葉には、事業序盤の苦労がにじみ出ている。

## 住民に納得してもらえらるまで 地道に説明をくり返す

当時、湾調は関東地方建設局管内でも小さい規模の事務所だった。全職員合わせて30人弱。所長である広瀬さん、副所長の佐野さん以下、担当課中心の5、6人で計画決定原案の地元説明会に回るようになったのだが、人手が十分とはとても言えない状態だ。

「そのため、一度は千葉国道事務所などに応援を頼もうかと所内で相談したのですが、彼らは『ここは我々だけでやりましょう』と力強く言ってくれました。やる気に溢れていて、とてもありがたかった。皆、若く、前向きだったのでしょね」(広瀬さん)

お二人の着任以前から準備に携わってきた調査課長

の大原泉さんを中心に大変苦勞しながら取り組んでくれたと広瀬さんは話す。

「私と広瀬さんは、湾調に着任してすぐ、大原課長に地元説明会用の資料を目の前に並べられ、『覚えてください』と言われたのです。項目ごとに分けてあり、ファイルが10冊くらいあったのでしょうか。とにかく資料が多く、細かいところまではとても覚え切れなかった。説明会のときは職員が後ろから該当頁をメモした紙を差し出してくれたこともありました」(佐野さん)

地元説明会では、佐野さんがリーダーを務めることになった。広瀬さんは事務所待機。所長として、質問に対する最終判断や整備局道路部への説明をする役割であったためだ。地元説明会に来る人の中には圏央道建設に賛成の人もいたのだが、やはり反対派の声は大きい。質問をするのも9割方が反対派。そのような中で説明するのはなかなかの苦勞だったと佐野さんは言う。

「説明する方も緊張しますよ。『なんで所長が来ないんだ!』と怒られたりもしてね。圏央道ができれば交通の便がよくなるし、産業の発展に寄与する非常に重要な道路なのだということをひたすら説明して、必要性からお願いするしかありませんでした」(佐野さん)

夏の2カ月間、12回開催した説明会には地区ごとに大勢の地元住民が訪れ、参加者が100名を超える会場もあった。「夜7時から9時までが説明会。その後、片付けて湾調に戻るのが10時過ぎ、反省会などをして次の準備





⑨ ゆったりとして走りやすい道路は、大型の車も行き交う



⑪ 車内から茂原長南IC方面を望む



⑩

⑩ 緑豊かな景観に配慮し、自然になじむようにした



⑫

⑫ 茂原長南ICの工事の様子

もしていると、家に帰れないこともありました。金曜の夜に説明会をして説明会の会場近くに泊まり、土曜の午前と午後2回説明会をすることもあって、体力的にも厳しかったですね」(佐野さん)

ルートが家にかかる、家の目の前が盛り土になる、道路によって地域が分断される、排水の不安がある、車両の通行により環境が悪くなる、動植物への影響はないのかなど、住民にもそれぞれ言い分はあった。特に多かったのが「ルートを変えてくれ」という要望だ。

「しかし、各種の開発計画や数多くのコントロールポイントを総合判断して決めたもので、それをすべて検討した上での決定です。なぜここを通すのか、もっと山際でもいいじゃないか、水田をよけてくれとの要望についても、『このルートが最適です』と言うしかありません。何とか理解していただくために、Q&Aの問答集を作って説明の仕方を考え抜きました」(佐野さん)

冬に行った環境影響評価(アセスメント)準備書の地元説明会で特に気を使ったのは、ミヤコタナゴ、オオミクリ、シランなどの貴重種だった。また、地域で生息が観測されたオオタカに関しても、生息地の環境を変えないようにしなければならないのだが、どこにオオタカがいるのかを言うてはいけない。場所が特定されると、それを狩りに行く人が出てくることもあるため、言えないことがある中での説得は本当に苦労したという。

説明会のたびに、地元の人からは「それで、圏央道は

いつでもできるんだ」という質問が出た。一つの事業は都市計画決定からだいたい10年、事業化し完成するまでにさらに10年、合わせて20年程度はかかる。説明会のあとにまだまだ長い道程があることを理解してもらうのも一苦労だった。

平成12(2000)年3月、東金茂原道路は無事に都市計画決定され、事業を実施する千葉県道事務所へ引き継ぐこととなった。湾調の仕事はここまでである。

## 道路ネットワークの完成まであと少し

圏央道東金JCTから木更津東IC間は、平成25(2013)年4月、暫定2車線で開通した。

東金JCT、茂原長南ICへと車を走らせる。窓の外の景色に「こんなに家はなかったね」「この道路は前はなかった」とお二人はしきりに目を凝らす。「当時、調査の一環としてこの辺りを歩きましたが、何もなかった。図面だけ見てもイメージが湧かなかったですね。こんなに整備されているとは。今見ても、面影がないところも多いですよ」と広瀬さん。当時はまだ計画になかった道路が次々とできている。圏央道が通ったことで、接続する県道などが整備され、千葉県内の交通網は強化された。

いよいよ完成に近付いてきた圏央道。「道路ネットワークの完成まで、現役の方にはあと少し頑張ってもらいたい」と、お二人は後進にエールを送る。



# 江戸時代の薫りが残る 巴波川河岸



かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸です。それらの河岸の歴史と現在を訪ねるシリーズ。第8回は栃木県栃木市にある巴波川河岸です。

## 巴波川の舟運で開けた栃木市

巴波川(うすまがわ)は、栃木市を流れる渡良瀬川支流の一級河川です。巴波という名は川の水が「渦を巻き、波を立てて流れる」様に由来しています。

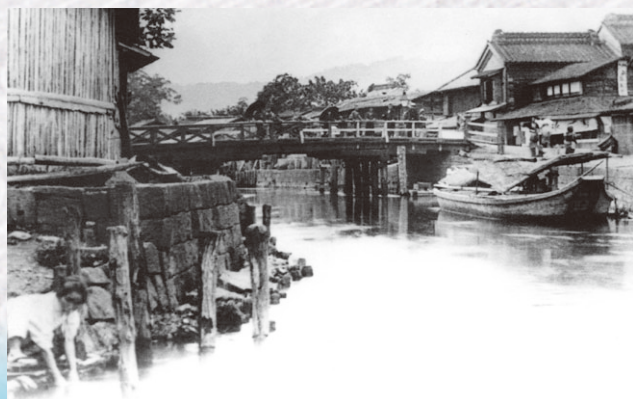
巴波川の舟運の始まりは元和3(1617)年、徳川家康の霊柩を久能山から日光山へ改葬した際、御用荷物などを栃木の河岸に陸揚げしたことがきっかけになったといわれています。江戸からは御用荷物をはじめ、塩、魚、油、砂糖、干し

魚などの食材が運ばれ、栃木の河岸に陸揚げされました。逆に栃木からは、米や麦、野菜といった食料、たばこなどの嗜好品をはじめ、木材や薪炭、石炭、瓦などの荷物が運ばれました。

輸送する際に活躍したのが部賀舟<sup>べかぶね</sup>です。この舟で積み込めるのは米50俵程度。藤岡町辺りまでは部賀舟を使い、そこから先は米200～300俵を載せることができる高瀬舟に積み替えて江戸に向かいました。当時の巴波川は水量が多く流れが速かったため、上りは一苦勞。そこで兩岸に綱手道<sup>つなてみち</sup>を作り、舟を綱で引いて遡航したといいます。

## 現存する蔵が栃木の街を彩る

巴波川の舟運の発達は、関東と南東北を結ぶ拠点として栃木市の問屋業や製造業の発展にも大きく貢献しました。とりわけ回船問屋の繁盛が目覚ましかったようです。富を象徴するように建てられた白壁土蔵が、巴波川周辺に点在してい



明治10年に撮影された幸来橋と部賀舟(べかぶね)。  
部賀舟を通して江戸と交流していた  
撮影:片岡如松(片岡写真館提供)





巴波川橋

横山郷土館〔下〕。両袖切妻造とよばれる建物。横山家は明治・大正期の豪商で、銀行と麻問屋を営んでいた



塚田歴史伝説館〔上〕。江戸時代から材木回漕問屋を営んできた塚田家。敷地内には、栃木の歴史や山車が展示されている



蔵に使用されていた鬼瓦

散策路となった綱手道



岡田記念館〔上〕。栃木市屈指の旧家で550年以上の歴史を持つ

巴波川にいる鯉〔左下〕。栃木市の中心街にある蔵の街大通り〔右下〕。鯉と蔵の街として観光客を惹きつける



ます。

北関東の商業都市として栃木市の発展を大きく支えた巴波川。鉄道の開通などで舟運は衰退しましたが、巴波川河岸周辺は蔵や歴史ある建物が現存しており、現在は「蔵の街栃木」として注目を浴び、賑わいを見せています。

かつての綱手道は散策路となっており、観光客が歴史ある建物や名所を巡りながら、巴波川と蔵の景観を楽しんでいました。柳の木が揺れる巴波川のほとりを歩くと、部賀舟が行き交い、当時の人々が活気に満ちていた様子が目に浮かびます。

川を覗くと、色とりどりの鯉がうゆうと泳いでいる姿を見ることができます。蔵と鯉の街として風情のある雰囲気醸し出している巴波川。街の発展に大きく寄与した川は、これからも地域の人々を支える頼もしい存在です。





## 大落古利根川からの逆流を防いだ 倉松落大口逆除

埼玉県春日部市を流れる旧倉松落（現：準用河川幸松川、落＝排水路）に、「めがねはし」と呼ばれる道路橋があります。煉瓦造りの4連続アーチをなしていることからこう呼ばれていますが、正式名称は「倉松落大口逆除」といいます。「逆除」という文字から想像できる通り、もともとは橋ではなく、大落古利根川が氾濫した際、旧倉松落に逆流するのを防ぐための樋管として使われていました。樋管とは水利施設的一种で、樋門ともいいます。水門と似ていますが、水門は堤防を切断して造られる大型の門なのに対し、樋管は堤防の下をくぐり抜ける小水路の門を指します。

旧倉松落は大落古利根川に合流する排水路でした。流域は低地だったこともあり、たびたび洪水の被害に遭っていました。明治23（1890）年に起きた洪水では、熊谷市から春日部市の広範囲にわたって氾濫し、当時の木製の樋管は破壊されてしまいました。このためより強固な樋管が必要であるとのことから、明治24（1891）年、煉瓦造りの4連

続アーチの樋管を建設したのです。これが倉松落大口逆除です（以下、大口逆除）。

残念ながら当時の資料は残っておらず、正確な寸法は分かりません。独自に調査を行った選奨土木遺産関東支部選考委員の小林寿朗氏によると「樋管長（流水方向長）は約5.10m、胸壁の長さは約11.10m、4連のアーチの幅は約1.89m。本体の高さは上部が道路として利用できるよう改築されているため正確な数字を測ることはできません」と説明します。

埼玉県は江戸時代、利根川東遷や荒川西遷事業で新田開発が進められ、水田には多くの樋管が設けられました。明治中期には煉瓦を用いて改築や新築するものが現れ、現在も40箇所以上の煉瓦造りの樋管が残っています。大口逆除は数少ないアーチ型樋管の中で、唯一4連アーチを持つ樋管だといえます。

### 周囲の風景と調和する 煉瓦の色とデザイン

人目を引くのは、やはり独特な装飾です。下流側の胸壁



## 関東の土木遺産 第29回

“めがね橋”の愛称で市民に親しまれる

# 倉松落大口逆除

（くらまつおとし おおくち さかよけ）埼玉県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。

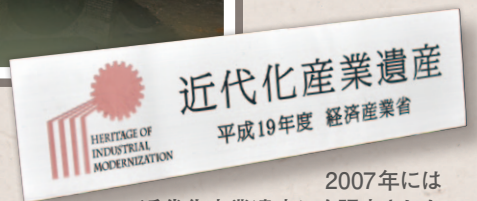


それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。第29回は道路橋として活用されている倉松落大口逆除です。

下流側から見た倉松落大口逆除。  
煉瓦造りで装飾も施されている



上流側から。水面にアーチが映り、きれいな円を描いている（後年、コンクリートの一車線を増設）



2007年には  
近代化産業遺産にも認定された





には五角形の柱があります。樋管を造る場合、ゲートを設置するための<sup>かくおとし</sup>角落と、柱の先頭部分には石材を用いて、強度を高めるのが普通ですが、大口逆除はすべて煉瓦を用いています。しかし、角落部分に破損などは見当たらず、今もそのままの形をとどめています。

また、兩岸側にある翼壁部分には壁体の頂上を保護するための<sup>かさいし</sup>笠石が4段積みで施されており、縦や横など異なる積み方で構成されています。中でも特徴的なのは3段目の「角出し」<sup>かどだし</sup>です。煉瓦の角を突き出して並べる装飾の技法ですが、これがあることによって晴れた日にはこの部分に影が差し、より一層デザインを引き立てるのです。

しかしながら小林氏は、「最も注目すべき点は煉瓦の色」だと話し、こう続けます。

「深谷市には近代化した煉瓦製造工場があったため、県内の多くの樋管は同工場の赤煉瓦が使われましたが、大口逆除は全体的にコーヒー色をしています。この煉瓦は、横黒あるいは鼻黒煉瓦という種類で、生産年代は赤煉瓦よりも古いと思われます。どこで仕入れたのかは不明ですが、周りの風景と調和していい雰囲気を出しています」

## 貴重な土木遺産を残していくためには 保存、保全活動が必要

昭和15(1940)年、倉松落は排水先を大落古利根川から中川に付け替える工事が完了しました。倉松落は旧川となり、沿川の耕地整理によって流域の氾濫が減少しました。現在大口逆除は、道路橋としての役目も担っており、建設から125年もの歳月を経てもなお、その役目をしっかりと果たしています。

平成17(2005)年、大口逆除は選奨土木遺産に認定されました。認定の理由を小林氏は「埼玉県内に残る樋管の中でも規模が大きく、古いこと。また、100年以上を経た今でも活用されていることが評価されたのでしょう」と話します。

その2年後には近代化産業遺産にも認定されました。喜ばしいことである一方、「今後は貴重な遺産を残していくための対策も必要」と小林氏。

「補修はされていますが、外壁などを見ると老朽化が進んでいることは明かです。末永く活用していくためにも今後はさらに保存、保全活動が活発になることを願っています」



地元の人々は「めがねはし」の愛称で呼ぶ



大口逆除の兩岸側には頂上を保護するための笠石(かさいし)が4段積みで施されている



五角形の柱と胸壁の間にある窪みを「角落(かくおとし)」という。この窪みに板(ゲート)をはめ込み、上げ下げする。また柱の先頭部分は石材を使うことが多いが、大口逆除はすべて煉瓦を用いている



2005年に選奨土木遺産に認定された

大口逆除の隣の記念碑は橋の歴史を知る貴重な資料だ





## 会員のひろば

このページは  
会員の皆さまの  
投稿によるページです

### 居合道との出会い

私の生まれ育った秩父地方は古くから剣道の盛んなところで、甲源一刀流<sup>こうげんいつとうりゅう</sup>耀武館と小野派一刀流<sup>おのりゅう</sup>明信館の二大勢力がしのぎを削っておりました（ただし、争いの記録はありません）。そのような歴史ある地域であったためか、私も少年期から剣道に勤しみ、中学・高校時代は稽古に明け暮れる日々でありました。

社会人になってからは、しばらく空白期間がありましたが、中年になり住居も定着したこともあって、地元の剣友会で再び竹刀を握り始めました。そんな頃、久しぶりに参加した高校の剣道部OB会で、居合道八段の先生による演武を拝見する機会に恵まれました。70歳代後半の先生でしたが、その刀さばきの素晴らしさと気迫に圧倒され、居合道への憧憬が一気に膨れ上がりました。その時の感動が私を居合道にのめり込ませる始まりでありました。以来30年、今では剣道よりも居合道に軸足が置かれ、毎週土・日曜の半日は仲間と切磋琢磨、心地良い汗をかいております。

### 居合道とは

居合の起源は今から450年前の室町時代末期に、奥州林崎、今の山形県村山市の住人林崎甚助源重信公が神夢想林崎流居合を創始したのが始まりで、長い年月を経ながら多くの流派が生まれ、今日にその剣技が広く継承されております。

居合道は敵の不意の襲撃に対して、抜刀の一瞬の動作により敵を制し、勝ちを収める剣技です。しかし居合道修行の究極は敵を倒すことにあるのではなく、「常に鞘

の中に勝ちを含み、刀を抜かずして天地万物と和するところにあり」と言われております。つまり、いかなる時いかなる処でも正しい刀法の運用が行える技と心の修行によって武徳を身につけ、戦わずして「和」を求めることを究極の目的としております。

### 「居合道」体験してみませんか

前項では居合道の極意に関する精神論的なことを述べましたが、要は居合道を始める目的、動機は人それぞれ自由でいいのです。運動不足を解消したい方、精神的強さを求める方、刀が好きな方など、さまざまあると思います。当初の目的はそれぞれでも、稽古を積むほどに居合道の面白さ、真の目的が少しずつ見えてきます。

居合道は剣道のような激しい運動ではなく、各自の身体能力に合わせた稽古が可能のため、近年は幼少年から定年を迎えた中高年の方、刀が好きという女性（刀剣が好きな女性を「刀剣女子」といいます）など、幅広く愛好者が増えております。

剣道と居合道の違いは、剣道は実在する相手と「立合う」のに対して、居合道は敵の不意の襲撃に対し「居」ながらにして「合わせる（対応する）」ことを想定して技が組み立てられている点です。したがって、実在する相手が居ないため、自らが仮想した敵を相手に稽古を行います。

稽古は、初めのうちは刃の付いていない模擬刀を使って行いますが、上達（5段以上）してくると真剣を用いての稽古となります。真剣での稽古は精神を集中した清々しさや醍醐味を体感でき、居合の奥深さを修得することができます。また丹田を中心とした全身運動と腹式呼吸を行うことで、

13年前の私(関東地区大会)



# 居合無窮

## 山中正義

三和エンジニアリング株式会社参与  
元 企画部 技術調整管理官

国際文化交流会で演武



伊勢神宮奉納演武





身体の代謝を活発にする効果を実感できます。

日頃の稽古の他にも称号・段位審査会、京都大会や東京大会、合同稽古会など対外的行事も多くあります。また、近年は能舞台の落成式や公民館落成イベント、国際交流イベント、剣道大会など地元の各種団体から居合演武の要請があり、日頃の修練の成果を披露しております。

居合道は見た目ほど易しくはありませんが、難しいものでもありません。老若男女誰にでもできる武道です。日本の伝統文化「居合道」で心身をリフレッシュしてみませんか。ぜひ一度体験におかけください。

お待ちしております。

(大日本居合道連盟 教士八段)

(全日本剣道連盟 錬士六段)



全国大会(京都)に出場して

## 会 員 情 報

平成28年7月1日～  
50音順・敬称略

**新会員をご紹介します** 新しく11名の方が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

| 氏名    | 現勤務先            |
|-------|-----------------|
| 市川 勝巳 | (一財) 先端建設技術センター |
| 伊藤 豊  | (一財) 公共用地補償機構   |
| 小黑 晃彦 |                 |
| 越智 繁雄 | (一財) 河川情報センター   |
| 加藤 清  | 興亜開発(株)         |
| 北村 匡  | (一財) 水源地環境センター  |

| 氏名    | 現勤務先          |
|-------|---------------|
| 中村 敏一 | 国際航業(株)       |
| 深澤 淳志 | 東京海上日動火災保険(株) |
| 藤山 秀章 |               |
| 持丸 修一 | (一財) 建設物価調査会  |
| 山元 弘  | (株) 小松製作所     |

**お悔やみ申し上げます** 7名の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

| 氏名    | 逝去年月        | 建設省(現国土交通省)退職時職名 |
|-------|-------------|------------------|
| 北畑 久男 | 平成 28 年 6 月 | 甲府 課長            |
| 松本 修  | 平成 28 年 6 月 | 常陸海浜 課長          |
| 大森 静英 | 平成 28 年 7 月 | 利根下流 副所長         |
| 岩間 守  | 平成 28 年 7 月 | 常陸 課長            |

| 氏名    | 逝去年月        | 建設省(現国土交通省)退職時職名 |
|-------|-------------|------------------|
| 田邊 紘一 | 平成 28 年 9 月 | 沖縄総合事務局 公園調整官    |
| 住吉 忠  | 平成 28 年 9 月 | 北海道国道 出張所長       |
| 笠井 益男 | 平成 28 年 9 月 | 道路部 特定道路工事対策官    |

### 編集委員

● [関東地域づくり協会]

泉達也

刈部和人

櫛引繁雄

小池勇

澤田晋

仲川博雄

[会員]

小林豊 ((株) 大本組)

田中良彰 (大成建設(株))

ね。

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

季節は移り変わり、皆さんはどんな秋を迎えるのでしょうか。スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋……日々の生活の中で、それぞれの秋を感じ、満喫したいものですね。  
(編集委員 S・S)

リオデジャネイロではオリンピック、パラリンピックが開催され、多くの日本人選手が活躍し、感動を与えてくれました。メダルを獲得した選手のパレードでは沿道にファンが詰めかけ、祝福しました。多くの人がスポーツを愛し、熱い思いで応援していたことが分かりました。

それにしても、今年も非常に暑かった夏、皆さんはどのように過ごされましたか。

水に始まった今年の夏でしたが、多くの台風が日本列島に上陸し、全国各地で被害を受けました。幸いにも私たちの生活している関東地方では、昨年の鬼怒川災害のようなこともなく、皆さん、ほっとしているところでしょうか。

## 渇

水に始まった今年の夏でしたが、多くの台風が日本列島に上陸し、全国各地で被害を受けました。幸いにも私たちの生活している関東地方では、昨年の鬼怒川災害のようなこともなく、皆さん、ほっとしているところでしょうか。

## 編集委員会だより

2016年10月



ピックアップ

第7回 道の駅あおき

# 関東の道の駅

## 自然の恵みと心の 触れ合いを生かす 体験学習で交流 道の駅あおき



国内外から多くの人が農村体験に訪れる青木村。  
「道の駅あおき」(長野県小県郡青木村)はその活動拠点としての  
取り組みが注目され、重点「道の駅」に指定された。  
今後は、3カ年計画で施設の整備・拡充を図っていく予定だ。

### 普段着の農村体験が 子供たちの生きる力を育む

上田駅から西方へ約12km、国道143号沿いにある「道の駅あおき」は、三方を1,200m級の山々に抱かれ、近くに清流が流れる自然豊かな立地。特に、春は山菜、秋は松茸を買い求める観光客で大いに賑わいます。また、地元NPOによる体験学習の窓口、ソバ打ちやお焼きづくりなどを体験できる施設があり、重要な交流拠点となっています。人口約4,600人の青木村で体験学習をした人は過去3年間で約5,600人。国内の小中学生のほか、カンボジア、台湾、中国、スウェーデン、イスラエルなど外国人も多くなっています。

活動内容について、青木村役場建設産業課課長の片田幸男氏に伺いました。

「農村体験は、一番人気の日帰り『ほっとステイ』、宿泊型の『ホームステイ』、ポイントを巡りクイズに答える『観郷ウォーク』の3コース。ステイ型の基本方針は“普段着の農村体験を通じて、現代に生きる子供に必要な生きる力を育む”こと。受け入れ家庭の日常をそのまま体験させるのが特色です。受け入れ側はほぼ65歳以上の高齢世帯。受け入れやすければ長続きするし、生きがいにもなる。子供たちにとっては高齢者の

話を聞き、五感を使って農村を知る学びの場になります」

都会から転入する1ターン人口が100人を超え、積極的に村内の活動に関わる方も増えてきたといいます。

「今年、一般誌のランキングの住みたい村部門で青木村が1位になりました。口コミ力は強い。交流人口拡大、情報提供をバネに移住推進につなげたい」(片田課長)

### 地域創生拠点として 新たなステージへ飛躍を目指す

「道の駅あおき」では、平成27年の重点「道の駅」指定を機に高機能拠点化プロジェクトが進行。平成29年3月には農産物直売所が完成し、平成30年までに100席規模の食堂棟、情報発信・休憩施設、都市農村交流施設などを新設し、現食堂は研修・体験施設に生まれ変わります。一方、国道を挟んで開園した「ふるさと公園あおき」にはヘリポートやマンホールトイレがあり、同駅と一体型の広域防災拠点となる予定です。

「道の駅あおきは、まさに青木村の顔。村民にとって買い物、交流、生きがいを生む場所であり、防災拠点でもある。また、都市と村を、人、モノ、情報でつなぐ地域創生拠点としてさらに重要性が高まっていくでしょう」(片田課長)

青木村役場  
建設産業課課長の  
片田幸男氏



「ふるさと公園あおき」は  
同駅と一体型の  
防災拠点となる多目的公園

青木村限定栽培の新品種  
「タチアカネ」は白い花と赤い実が特徴。  
タチアカネを石臼製粉機でひいたソバが  
人気の食事施設「こまゆみ」



海外からの農村体験  
では農業や地方自治  
を学ぶ学生も多い。  
日本の文化に触れる  
イベントも開催(餅  
つき体験の様子)

日帰り体験に真剣に  
取り組む子供たち

